2017年11月1日発行（奇数月1日発行）通巻第55号

あ・うん

金剛禅総本山少林寺広報誌

vol. 55
2017 霜月・師走

特集
静岡県教区金剛禅易筋行大会

これが私の楽しみ方！
十人十色の易筋行

特集

静岡県教区金剛禅易筋行大会

これが私の楽しみ方！十人十色の易筋行

去る7月23日(日)、静岡県武道館にて『第一回静岡県教区金剛禅易筋行大会』が開催されました。主催者と参加者が互いに枠を超えて力を出し合い、ともに修行空間を創り上げる、まさに〝行〟と呼ぶにふさわしい喜び溢れる空間がそこにはありました。

ひと味もふた味も異なる大会

全国でも先駆けて、静岡県教区が企画・運営する『第一回金剛禅易筋行大会』(以下、易筋行大会という)が開催され、盛会裏に終えました。既存の大会とはひと味もふた味も異なるその取り組みや工夫を特集してお伝えしたいと思います。

県大会と易筋行大会、どちらも楽しめた一日

易筋行大会は7月23日(日)、13時より静岡県武道館にて開催されました。午前は静岡県少林寺拳法大会(静岡県少林寺拳法連盟／同会場／以下、県大会という)でしたので、拳士や家族にとっては集まりやすく、内容の濃い一日になったことは間違いありません。

異なる二つの大会は互いに対照的で、県大会が緊張感に溢れていれば、易筋行大会は笑顔に溢れ、県大会で気合がこだましていれば、易筋行大会では笑い声がこだましていました。

どちらの大会も、この一日を、出場者がそれぞれのスタンスで楽しんでいた様子が印象的でした。私たちの行は対象者や局面に応じて「育てる」「鍛える」「養う」と形容されますが、まさに少林寺拳法グループの持つ懐の深さが感じられる一日の構成であったといえます。

担当／倉本亘康

大会次第

大会テーマ

羅漢錬拳

(皆で活き活きと楽しむ易筋行)

開会

鎮魂行・奉納演武

教区長挨拶

来賓挨拶

易筋行１『全体基本』

易筋行２『発表の部』

アトラクション
『絵本で広げよう金剛禅プロジェクト』

少林寺拳法創始70周年ＰＲ
『架け橋たれ』

表彰・講評

閉会

コラム 工夫①　会場の設（しつら）え
県大会から易筋行大会への場面転換

県大会が終わって易筋行大会が始まるまで一時間。この時間は運営スタッフの皆さんが大慌てで会場を走り回りました。横断幕はもちろん、雛壇の設えまで、全てが金剛禅スタイルに変わってゆきます。

特に雛壇中央に据えられた祭壇は、この日のために実行委員会が設えたもので、達磨像を中心に仁王像も両脇に据えられ、金剛禅の紋章（盾卍）を背負い、易筋行大会の中心として会場を引き締めていました。

一つとして同じものはない自由な発表形式

易筋行大会では、特に審判員を設けず、道院もしくは小教区単位での自由発表を中心に行われました。この「自由発表」は演武に限らず、演劇なども含んだもので、16の出演グループがそれぞれに趣向を凝らし、非常に多彩な発表会となりました。演武についても取り決めは最低限のもので、組演武や団体演武はもちろん、親子演武・衆敵闘法から、運用法や法器を用いたものまで、一つとして同じものはない豊富なバリエーションでした。

おもむろに懐から取り出すメッセージ

語り部は道院長。主演は全拳士。みんなでつくり上げる演劇

会場が笑顔と一体感で溢れる絵本の時間

「どうやって楽しませてやろうか！」というチャレンジ精神

今回、出場単位を「道院」や「小教区」としたことで、一つの表現をみんなで考えることができたのは、新しい刺激となったのではないでしょうか。拳士同士が意見を出し合い、共通のゴールへ向けて努力してゆく姿は、想像しただけでも楽しそうです。

壮観なり。錫杖演武

演目から滲(にじ)み出ているのは、「みんなを楽しませたい」という思いではなかったかと思います。また、見ている方もそれが分かっているから、「ぜんぶ楽しんでやろう」という雰囲気でした。双方にすばらしい笑顔が自然と湧き出てきて、『どれもがすばらしい』という一体感が会場内に醸成されていました。

そこにいるみんなが、目の前の人に・ことに関心を持って見守る。

コラム　工夫②　主催者の服装 スーツから法衣への早着替え

午前中の県大会では来賓としてスーツ姿で雛壇にいた教区役員も、午後の易筋行大会では法衣・絡子（輪袈裟）に着替え、主催者席にスタンバイ。金剛禅の大会に相応しい空気を創ろうという、静岡県教区の心配りが伺えました。

リーダー同士の架け橋が実現する県全体の発展

湯浅裕二教区長と小泉実理事長は、お互いに相手のことを「何でも言い合える相手」といいます。静岡県連は特に中学校武道必修化における少林寺拳法の躍進に努めており、小泉理事長は「中学校で少林寺拳法が知られるようになると、道院を訪ねる人も多く出てくるだろう」という考えから、教区との協力関係を絶やしません。

今回、易筋行大会の開催にあたり、静岡県武道館を借りることができたのも、静岡県連に対する武道館側の信頼の厚さが重要な決め手だったようです。

湯浅裕二静岡県教区教区長

小泉実静岡県少林寺拳法連盟理事長

自由な発想を持って金剛禅を幅広く楽しむ

既存の「大会」というイメージに囚われず、金剛禅らしさとは何かをしっかりと見つめて出来上がった易筋行大会には大きな可能性を感じました。今大会をお手本としながらも、次大会を企画するたびに新しい魅せ方・楽しみ方を探求してゆくことが発展のキーワードなのだと思います。

そこに金剛禅の香りがしたならば、それもまた一つの易筋行大会として成立するのではないでしょうか。本山もリードしてゆきますが、各教区でも新しい易筋行の表現が探求されることを期待してやみません。

開祖語録ダイジェスト

1976年３月
本部定例道院長会・武専

人生のテーマを自ら選択する、これって案外楽しい

君らに聞きたいが、良心に恥じない、心にやましくない、もっと積極的な言い方をすると「自分が自分で喜べる」、そういう生き方、してきたか？　自己批判できるだけでなく、実際の行いをもって変えていく。どう、できてるか？　過ちがないなんて誰にもありえないから、間違いを恐れたってしようがない。でも、してしまったあとの償い、それ以上に、同じことを繰り返さない深い反省、問題は、その積極的な心の働きとしての慈悲心を、みずからの意思で育てようとするかしないかです。

そんな心があって互いが存在するなら、人間と人間の関係なんて大体うまくいくのです。もちろん波長が合わない相手も、通じない人もいる。こっちは好意でしてるのに、してくれて当たり前、あいつのすることは全部悪意だと受け取るのもいます。でも、全部が全部とはならないにせよ、少なくともみずからの良心に基づく判断、良心の秤（はかり）に掛けてしたことについては、相手の受け止め方は別として、「これはこれでよかった」とする姿勢を強く持つべきだ。そして、徳のある人生、ない人生、どちらを選んで生きるか、幸福運動を提唱する少林寺に入門した以上、君らもそろそろ肚を決めるべきじゃないのかな。

けれど、幸福運動と言ったとたん、世の中、そんなに甘くないとばかりに、悲観的・消極的な捉え方をする人がいます。何が〝幸せ運動〟〝金剛禅の主張〟だ。そんなもん、管長の思い上がり、現実を見ないでいいかげんな夢を語ってるって。おっしゃることは分かるし、できそうもない遠大な理想、そのとおりである。でも、己の人生のテーマを自ら選択する、これって案外楽しい。ですから、できてもできなくても、今も将来も、この世の中に理想境をつくろうではないかと、私は〝戯言（たわごと）〟を言い続ける気である。

※この開祖語録中の「少林寺」は、金剛禅総本山少林寺を意味しています。

絵本で広げよう金剛禅プロジェクト

栃木足利道院
道院長　河面 豊光

出会い

新しい物や事、そして新しい人や新しい自分との出会いは、人を若返らせてくれます。「絵本」はまさに、その出会いを提供してくれます。もちろん、その出会いは自分で選ぶことから始まるのですが……。他人が「いいよ」ということを取り入れるのも「出会い」の始まり……。

易筋行の修練では、私は「教える（指導する）人」ですが、「絵本の読み聞かせ」を行うときの私は、「ただの読み手」です。教える立場ではないからこそ、子供たちや一般の拳士たちとともに、同じ目線で一つのことを体験しているように感じています。子供たちと一緒に絵本を読んでいると、私自身が多くの「発見」や「出会い」をさせていただいていることに気づかされます。これからもどんな絵本との出会いが待っているのか、ドキドキ、ワクワク、楽しみです。

今回読んだ絵本

◎おしいれのぼうけん

作：ふるたたるひ
　　たばたせいいち

★河面道院長の書評
多くの子供たちが読んだことのある、幼児期に人気の絵本です。一回で読むには長い話で、二回に分けて読みました。それぞれに経験した保育園や幼稚園での思い出と重なるようで、二回目はすぐ整列して待っていました。押し入れの中で起こるさまざまな困難を、力を合わせて乗り越えるのですが、子供によって関心を示す場面が異なるところも、読み手としては嬉しくなるところでした。

法を問い
学を修める
vol.54
文／東山 忠裕

昭和史～開祖の生きた時代

数々の体験から、幸福な人生を築き、平和で豊かな理想境を祖国日本に実現するためには、自分がどのように生きればよいか、また、人々をどのように導けばよいか、そして、その目的にかなう正しい手段は何かを、開祖は「少林寺拳法教範」第一編の第一章で明確にされています。

金剛禅は、正しい釈尊の教えを基盤としていますが、何といっても開祖の体験に裏付けられた思想と行動から生み出された独自な新教団です。開祖は死に場所を求めて満州事変直後の大陸へ渡り、持ち前の正義感と卓越した行動力で現地民衆の信頼を受けながら、また一方では彼ら民衆の強い横の団結に教えられながら、自分自身の中に透徹した世界観の基礎を育まれていくのです。

従って、開祖の思想が確立されていく青春時代の背景＝昭和初期の歴史を学習することが、金剛禅の原点を理解することにつながります。

明治維新以後、日本の歩んだ道を、とりわけ開祖が青雲の志を抱いて再度大陸に渡られた1928(昭和3)年前後から、45年の敗戦を経て帰国、混乱の渦中に金剛禅を創設された47年前後までの歴史を把握することは、金剛禅の原点を知るうえで不可欠の要素といえます。金剛禅の運動としての原点は、激動の昭和史の中に胚胎しているのです。

開祖がどのような時代を生き抜かれ、どのようにして金剛禅の思想の基盤を確立されていったかを知ろうとすることが、開祖の思い・志を理解し、共感することにつながるのです。

年号	年齢	開祖	社会
明治44	0	出生(本名・中野理男)	
大正3～7			第一次世界大戦
8	8	義父・中野理一死去	戦後不況
12	12		関東大震災
14	14	満州に渡る。父方の祖父 宗重遠に引取られる 奉天中学校入学	
昭和2	15	母・吉野死去、妹・智恵子死去	
3	16	妹・聡枝死去、祖父・重遠死去。天涯孤独となる	
4	17	再度満州へ。特務機関に従事。陳良老師に出会う	金融恐慌
5	18	満蒙大旅行にて各地の拳技に触れる	張作霖爆殺事件
6	19	各務原飛行連隊に入隊	世界大恐慌
7	20	心臓弁膜症と診断され除隊	
11	25	嵩山少林寺にて文太宗老師から義和門拳第二十一代師父継承	満州事変
12	26	白衣殿(現・観音殿)羅漢練拳の壁画に強い感激を覚える 満州鉄道の鉄路警護隊員となる	五・一五事件 二・二六事件
14	28	満州綏陽県商工股長として、国境の町・綏陽に赴任	日中戦争
16	30		太平洋戦争
18	32	満州綏陽商工会事務局長となる	
20	34	中国東北部にて敗戦を迎える	広島・長崎に原爆投下
21	35	ソ連軍の侵攻に対し、必死の逃避行	ソ連参戦・日本無条件降伏
22	36	六月、引き上げ部隊の中隊長として佐世保に上陸 10月25日、多度津町に少林寺拳法誕生	敗戦直後の混乱期

わたしの工夫

第4回

道院運営へのヒント・・・もって道院の活性化、拳士の育成につなげていこうというコラムです。

今回の工夫を教えてくれたのは・・・

福山東道院
瀧本保夫道院長

工夫1 当たり前のことをいいかげんに済ませない

いちばん多いときに150人いた拳士が、３年前に60人を切ったことがありました。そのとき、自分を振り返ったところ、「マンネリ化」に気づいたのです。当たり前のことが雑になっている、と。そこで今一度原点に帰り、本来の指導のあり方を見直してみました。例えば、一回の修練の中で、必ず一人ひとりに目を見て声をかける、技を掛けるだけでなく掛けさせてあげる、など。また、少年部の鎮魂行では、子供たちは「教典」を覚えることが難しく、声も小さくなります。そこで、あえて「教典」を文節ごとに区切り、一人ひとりを指名して輪唱する方法をとり、全員が参加できるような工夫もしています。また、行事も決して手を抜かずに、着実に実施しています。

それらが結果として、拳士や保護者・協力者から、「瀧本先生なら安心できる。信じられる」という評価につながり、人が人を呼び、今では90人近くになりました。

特別なことをするというよりも、当たり前のことをいいかげんにせず、しっかりやる。地味なことかもしれません。でも、これが、人間関係の基礎となる「信頼」を得るための、いちばんのポイントなのだと思います。

工夫2 拳士の努力に報う言葉――「ありがとう」を伝える

私は、多度津工業高校(現・多度津高校)の出身で、開祖に触れるご縁を頂いていたのですが、友人との高校卒業旅行のとき、「確か、管長先生(開祖)、漬物好きやったよな」と思い出し、お土産として、旅館の女将さんから漬物を頂いて帰ったことがありました。そのとき、開祖は「ありがとう」と非常に喜んでくださいました。

そして後日、開祖は法話の中でこうお話しされたのです。「高価であるかどうかじゃないんだ。相手を思いやり、行動してくれる気持ちが大事なんだ。わしはそれが嬉しかった」と。

開祖からお叱りを受けたこともたくさんあります。でも、「ありがとう」という、そのひと言に救われ、「ああ、やってよかったな」と心が温かくなったことが何度もありました。「ありがとう」という言葉は、その人の努力に報い、力を与える言葉なのだと思います。私は、日頃から、幹部や子供たち一人ひとりの「心」を大切に、感謝の気持ちを忘れずに指導しています。「ありがとう」という言葉は、感謝の気持ちを伝え、道院全体における安心感と信頼性の醸成に確実につながっていると感じています。

担当／飯野貴嗣

道院長　vol.39

元気の素

群馬みどり道院
道院長　中島 匡裕（49歳）

どうせ後悔するなら、やってから後悔しろ

道院長になろうと思った最初のきっかけは、入門した高校時代。桐生道院の初代道院長である杭田要道院長に師事し、「この人のようになりたい」と思ったことでした。その後、社会人になり、そんなこともほとんど忘れて一拳士として桐生道院に在籍していたころ、ある先生から、「そろそろ考えたらどうか。道院長になろうと思ったことはないか。もしあるなら一度なってみろ。どうせ後悔するなら、ならないでするより、なってから後悔しろ」と言われました。

そうして、一か月真剣に考えてから、二代目桐生道院道院長の小嶋武志道院長に自分の考えを報告し、いずれ道院を設立したいと申し伝えたところ、「ならば、思い立ったときがよい」と、江原謙二教区長と先代の杭田要先生に、一緒に話をしてくださいました。その後、修練場所の確保や道院長資格認定研修会などを経て、半年後には、まだ道院が設立されたことのない、平成の大合併で新しく市になった群馬県みどり市に、群馬みどり道院を出すに至りました。

危機的な状況を乗り越えて

道院活動を始めておよそ半年ほどが過ぎ、拳士数も二桁となり、やや軌道に乗りつつあるかとも思えた2011（平成23）年3月11日。東日本大震災に見舞われ、震災の影響で約3か月の間、修練場所が使用できず、気がついたら在籍拳士数が3人になっていました。

修練場所の使用許可がようやく出て再開したのもつかの間、私自身が病気で入院し、復調して落ち着いたころには設立から一年がたっており、何もできずに一年が過ぎていたことに愕然としたのを覚えています。

そんな折に、叔父から、自分が経営していた金型工場の跡地と元の住まいを誰か買ってくれないかと相談を受けました。こちらもちょうど、修練可能な専有道場を確保せねばならず、どこから手をつけようかと迷っていたやさきであったため、渡りに船とばかり叔父の話に乗りました。また、融資を頼みに行った先で、元拳士の父親が担当していることを知り、適切なアドバイスを頂け、何とか自前の専有道場を確保することができました。

松下村塾のような道院を

少林寺拳法の仲間は本当に横のつながりが強く、私自身、何度も助けられました。むろん、自分も恩返しのつもりでお役に立ちたいですが、この関係を学び、自分もそんな人になり、少林寺拳法だけに限らず、そんな後輩を育てたいという拳士が出てくれるとうれしいです。

草の根運動なので見えにくいですが、「器や夢が小粒といわれても、自分なりの松下村塾」のような場所をつくれる人を育てたいです。

※プロフィールなど、金剛禅オフィシャルサイトの全文もぜひご覧ください。

本山 開催報告（派遣講師）

●本山公認教区講習会

[9月3日]北海道教区（宗由貴、竹田則幸）
[9月10日]三重県教区（青島勉、萩原俊次）、愛知県教区（濵﨑哲也）
[9月30日]宮城県教区（大澤隆）
[10月15日]神奈川県教区（大澤隆、柏井伸一）、富山県教区（東山忠裕）

●教区研修会開催報告

[9月3日]岐阜県教区
[9月9日]新潟県教区
[9月24日]福井県教区
[10月8日]大阪府教区
[10月28日]東京都教区
[10月29日]長野県教区

●小教区研修会

[9月度]
[9月2日]山形庄内小教区
[9月3日]神奈川横浜第三小教区
[9月17日]東京第十四小教区、静岡富士小教区
[9月22日]宮城塩竈小教区
[9月24日]神奈川西湘第一小教区、三重中勢小教区

[10月度]
[10月1日]東京第十小教区、福岡筑紫小教区、兵庫東播第一小教区、神奈川横浜第三小教区
[10月8日]千葉西武小教区
[10月9日]青森南部小教区
[10月22日]北海道石狩小教区
[10月27日]宮城塩竈小教区
[10月29日]静岡西部第二小教区

洛東道院 第51回洛東祭2017（少林寺拳法公開演武会）

2017（平成29）年6月24日、京都教育文化センターにおいて、少林寺拳法創始70周年記念第51回洛東祭2017を開催しました。本大会は、日頃の修行の成果を発表する場、また金剛禅の布教の場と位置づけ、道院設立以来、毎年開催しています。

奉納演武に始まり、洛東スポーツ少年団の招待演武、団体演武、剛法・柔法の法形、居捕（どり）・短刀捕の技術、そして最後に、世界大会出場拳士による演武を披露し、少林寺拳法の多彩な魅力を紹介することができました。

当日は、全国各地から多くの道院長とOB拳士にお越しいただき、法縁を深めることができました。また、観客席からは、全力を出した拳士に大きな拍手が送られ、盛会裏に終了しました。

（上嶋克則）

少林寺拳法創始70周年記念 2017年少林寺拳法女性拳士北海道交流会

9月2日、北海道総合体育センターにて、全国各地から約90名の拳士が参加して、第二回目の少林寺拳法女性拳士交流会が開催されました。この交流会は、開祖の志を見つめ直し、少林寺拳法の可能性を探り、女性拳士のつながりを深める目的で、2015年2月の沖縄県での開催が始まりです。

当日は、宗由貴少林寺拳法グループ総裁を囲んで、笑顔の絶えない充実した時間を過ごすことができました。総裁講話では、幼いころの開祖とのぬくもりと優しさに包まれたエピソードを聞かせていただき、心がリフレッシュされて、あすへの活力が湧いてきました。

北海道を代表するよさこいチーム「新琴似天舞龍神」の皆さんに華麗な演舞を披露していただき、また参加者全員でよさこいを踊る場面は、法縁と調和を感じる豊かなものになりました。

「閃（ひらめ）きと煌（きら）めきを輝きに」をテーマに、初対面の拳士が自由な発想でつくり上げた創作団体演武では、どのチームも一人ひとりが輝き、団結することで生まれる強さと美しさを感じるすばらしいものになりました。

今後も、全国の女性拳士が、少林寺拳法の可能性をさまざまな方法で開花させ、人づくりと社会貢献に役立つことができるよう取り組んでいきたいと思います。開催にあたってご尽力いただいたすべての方に、深く感謝申し上げます。

（実行委員長・高橋康子）

本山 8・9月度帰山行事

【帰山道院】

[8月度]大阪狭山道院（道院長・山崎武宏）、宇部常盤道院（道院長・鈴木義勝）、善通寺中央道院（道院長・渡辺實）、四日市富田道院（道院長・西村忠則）、尼崎潮江道院（道院長・三角進弥）、豊中北道院（道院長・小倉豊）、岡山吉備道院（道院長・吉田将則）、大阪神宮寺道院（道院長・下川博隆）

[9月度]大阪白鷺道院（道院長・佐々木正）、大阪平野道院（道院長・川添浩史）

（宗務部）

投稿大募集　〒764-8511 香川県仲多度郡多度津町本通3-1-48　金剛禅総本山少林寺 広報誌担当宛　TEL.0877-33-1010　FAX.0877-56-6022
e-mail：aun@shorinjikempo.or.jp　※投稿記事は400字を目安とし、名前、所属、連絡先を忘れずにご記入ください。なお、誌面の都合上、原稿内容の整理・編集をさせていただく場合があります。原稿の選択はご一任ください。ホームページには誌面以外の投稿も掲載しています。

2017年６～９月度　認証

●新設

西宮用海道院　林 幸治
大津比良道院　矢野 馨
福井西道院　高橋 敏一
旭川神楽道院　坂口 伊津美

●道院長交代

大阪東住吉道院　御田 武亨
大阪松原道院　御田 武亨
大野北道院　鳥山 武俊

法階昇格者

准範士

2017年6月18日付
舘 光彦（八戸東道院）

2017年6月25日付
須藤 晋昌（ケアスポーツ健康クラブ）
本間 一平（新発田道院）
宮本 公己（本部道院）

僧階昇任者

権大導師

2017年8月1日付
芝 慶三（鬼北道院）

中導師

2017年7月1日付
松田 千明（橋本紀ノ光道院）

2017年8月1日付
小松原 哲雄（東京府中西道院）
浦本 久伸（横浜鶴見道院）
権代 健一（萩道院）

2017年9月1日付
池田 政俊（横浜都筑道院）
三井 純一（京都明珠道院）

権中導師

2017年8月1日付
藤澤 秀一（札幌平和道院）
鈴木 彰（青森南道院）
鈴木 隆文（白河道院）
仲野 剛（福島桑折道院）
佐藤 佐知雄（福島桑折道院）
佐川 航平（宇都宮東道院）
水口 酪也（東京上北沢道院）
日置 隆司（東京飛鳥道院）
池田 政俊（横浜都筑道院）
児嶋 俊宏（横須賀三崎道院）
高橋 秀治（秦野道院）
小林 健郎（四日市道院）
鈴木 才三（京山道院）
水嶋 正典（大阪富木道院）
多田 邦尚（徳島道院）
高橋 春旨（徳島国中寺道院）
佐々木 太一（徳島国中寺道院）
山田 敬介（本部道院）
松浦 和也（伊予津島道院）
内田 喜久（福岡大川道院）
野口 浩平（福岡大川道院）
園田 雅彦（大分府内道院）
中島 隆男（鹿児島西道院）
遠矢 さゆみ（薩州天文館道院）
瀬戸口 慎吾（鹿児島西道院）

お布施

布施

▷豊田末野原道院　服部 俊美	10,000円

本山帰山記念

▷岡山吉備道院　吉田 将則	30,000円
▷四日市富田道院	10,000円
▷善通寺中央道院　小野 哲	3,000円

公認講習会

▷京都府教区	70,000円
▷宮城県教区	30,000円
▷福島県教区	30,000円
▷茨城県教区	30,000円
▷埼玉県教区	30,000円
▷山梨県教区	30,000円

年のはじめの例（ためし）とて

新春法会・稽古始め

主な内容

- 師家年頭挨拶
- 新春法会
- 稽古始め
- 新春の集い（予定／演武披露、書き初めパフォーマンス、多度津京極少林寺拳法太鼓など）
- もちつき・ぜんざいふるまい・お正月遊び体験（こま回し、羽根つきなど）
- 軽食販売（うどん、ホットスナックなど）

日　程：2018年1月14日（日）9：00～13：40予定
場　所：金剛禅総本山少林寺
対　象：道院長、拳士、そのご家族・ご友人
※すべての行事にご参列・ご参加できます。少年拳士や幅広い年代のご家族にもお楽しみいただけます。お誘い合わせのうえ、ぜひ、おいでください！

編集後記▶11月第1週にある「ブルースカイキャンパス in 多度津」は、創始70年の後半を飾る記念事業です。催し物に参加する、協賛や当日のスタッフとしてサポートする、来山して楽しむなど、いろんな形でこの事業に関わった皆さんに感謝いたします。▶どんな取り組みも、たくさんの人の思いや力が一つになって形になります。思いが形になるまでの課題や葛藤（かっとう）も、振り返ればすべてが成長や発展の糧であったはずです。それぞれの道院にもそうした歩みの歴史があったことでしょう。▶そうした歩みの一つ一つは、人と人をつなぐ、そして今を未来へとつなぐ「架け橋」です。何もしなければ始まらない。一歩踏み出して、前へ。70周年テーマの「架け橋たれ」は、理想境建設を掲げる金剛禅の基本テーマでもあると思うのです。（さ）

表　紙▶**三野 智大** 北海道出身。専門学校札幌ビジュアルアーツ卒業。2016年3月より「ダーマ」をテーマに『あ・うん』の表紙撮影に取り組む。正拳士四段。

金剛禅総本山少林寺オフィシャルサイト▶
http://www.shorinjikempo.or.jp/religious/
代表法話をはじめ、「宗門の行としての少林寺拳法」を動画でご覧いただけるほか、誌面に掲載しきれなかった記事・写真も掲載されています。

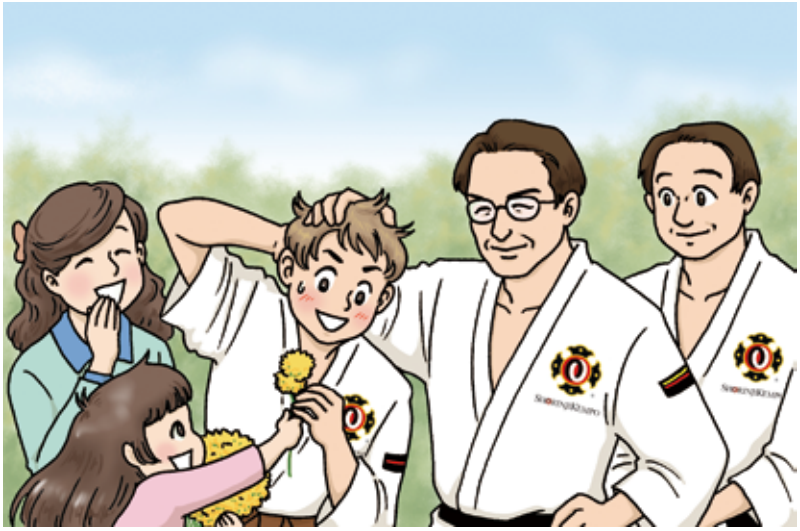
金剛禅　検索

あ・うん　金剛禅総本山少林寺広報誌
vol. 55
2017霜月・師走

2017年11月1日発行（奇数月1日発行）
発行人：大澤　隆
発行所：金剛禅総本山少林寺
〒764-8511
香川県仲多度郡多度津町本通3-1-48
☎0877-33-1010
http://www.shorinjikempo.or.jp
編集人：坂下　充
印刷・製本：株式会社ムレコミュニケーションズ

広報誌『あ・うん』追加発送について
現在、広報誌『あ・うん』は、道院の在籍門信徒数に応じて10～20部ずつ、一般財団支部は1部ずつ、毎号ご提供させていただいております。さらに追加をご希望の方は、本山宗務部にお申し出ください（追加1部につき50円・送料別途要）。
TEL.0877-33-1010
e-mail：aun@shorinjikempo.or.jp

一期一笑（いちごいちえ）



イラスト／大原由軌子

酒田中部道院　今野　啓司

師と縁

大学少林寺拳法部に入部し43歳となった今も、現役拳士として継続していますが、振り返ってみると、人生の要所は金剛禅とつながっているなぁとつくづく感じます。大学時代から技の修練だけでなく、少林寺拳法の教えにはとても興味がありました。社会人になり、結婚を迎えたときも、妻との出会いは少林寺拳法でした。

道院で少林寺拳法教室（全10回）を開催した際、私が指導者として接する機会があったからです。実は、妻は道場長の奥様の友人でした。

結婚式も金剛禅式で、鈴木信一道院長の厳かで温かな司婚（導師）の下、雄蝶（おちょう）・雌蝶（めちょう）（挙式中の介添え役）も、道院の先輩方に務めていただきました。

少林寺拳法で知り合い、金剛禅式で結婚式を挙げ、夫婦力を合わせて幸福になることをダーマに誓う。いろんなことがつながっている〝縁の力〟を感じました。すべて法縁のおかげと感謝しております。

授かった娘には「真理菜」と名付けました。物事の本質、宇宙の真理を理解してほしいとの願いが込められています。また、菜の花がきれいに咲く季節に生まれましたので、「菜」という字を加えました。

鈴木道院長には仕事に取り組む姿勢においても影響を受けています。私も道院長と同じ地方公務員なのですが、物事を決めていく際は、さまざまな立場の方が衝突するのでなく、お互いがよりよい方向に進めるようにしっかりと話し合っていく、全体の奉仕者としてのあり方についてもご指導をいただきました。このように、社会における姿勢から子育てに至るまで、あらゆる場面で指導をいただいています。

あるとき、高校生拳士が格好をつけようと頭髪を染めてきたことがありました。鈴木道院長は「流行なのか？　誰にしてもらっている？」と相手の気持ちをまず聞いて、数日たってから「もう気がすんだだろ、そろそろ卒業してもいいんじゃないか？」と改めるように優しく指導されていました。本人が自ら納得して行動を変えていく、つまり「人間は変わる可能性を有する種子である」ことを信じているからこその根気強い指導だと感じ入りました。

決して大きくはない体格の道院長ですが、だからこそ、力任せではなく、大変理にかなった技術を使われます。そんな拳理やコツを踏まえた指導をしていただいていることにも、非常に尊敬の念を覚えます。

よき師と縁に恵まれて、成長させていただいていることが、私の何よりの誇りです。

投稿大募集　道場や拳士のちょっといい話を募集しています。※ペンネーム可ですが、必ず、名前、所属、連絡先もご記入ください。なお、原稿内容の整理・編集をさせていただく場合があります。原稿の選択はご一任ください。〒764-8511 香川県仲多度郡多度津町本通3-1-48　金剛禅総本山少林寺 広報誌担当宛　TEL.0877-33-1010　FAX.0877-56-6022　e-mail：aun@shorinjikempo.or.jp

Ten'o Ken, Gyaku Ten Ichi

宗門の行としての少林寺拳法

天王拳（てんおうけん）　逆転一（ぎゃくてんいち）

上段逆突（ぎゃくづき）～中段順突（じゅんづき）の二連攻に対して、連受（れんうけ）・同時反撃で対処する。後ろ手で内受（うちうけ）、前手で打払受（うちはらいうけ）を行うが、一撃目を後方に下がりながら受けると、反撃間合が遠くなる。やや横転身（よこてんしん）に捌（さば）くことで相手の攻撃もよく捉えられ、内受・打払受ともに受けやすく、また反撃も行いやすい。

撮影／加々見一　文／永安正樹　演武者／守者：倉本亘康 准範士六段　攻者：冨田雅志 大拳士五段

SHORINJIKEMPO
少林寺拳法